

# 風景づくりの足あと

## 船橋小径

【風景づくりアドバイザーの活用】  
【地域風景資産】

船橋の住宅街に、土のまま残された小径があります。小径には木々や季節の草花が青々と茂り、鳥や昆虫などが生息し、地域住民の方々により木々や草花の管理が行われています。

令和2年（2020年）に隣接する高校の建て替え工事に伴い風景づくりアドバイザー制度を活用し、小径の樹木への影響の調査や、小径内の日照条件の変化などを考慮した樹木の選定などについてアドバイザーを頂きました。



## うめとぴあ

【風景づくりに配慮した公共施設】

「区立保健医療福祉総合プラザ（うめとぴあ）」は梅ヶ丘病院の跡地に保健医療福祉の拠点として整備され、令和2年（2020年）に開設されました。整備にあたっては、「周辺地域の緑との連続性に考慮したみどり豊かな環境の創出」「周辺地域に配慮した施設整備と景観形成」「オープンスペースや通り抜けの確保、安全な歩行空間の確保等による地域の防災性・安全性の向上」などの風景づくりの視点で、道路、公園、公共建築物、民間建築物の一体性に配慮されたデザイン・意匠となるよう計画・整備されました。



## 世田谷代田駅前広場

【風景づくりに配慮した公共施設】

平成12年（2000年）に地域にお住いの方々との検討が始まり、平成22年（2010年）に駅前広場整備計画を策定しました。整備にあたっては、利用者の安全や機能面の確保だけでなく、地域の個性を活かしながら、秩序のある連続した空間づくりに役立てるためのデザインの指針として策定された「北沢デザインガイド」に基づき、駅前広場内の施設と調和したデザインにすることで、街並みに一体感が生まれるよう配慮しています。



## まもりやまテラス

【旧校舎を活用した多様な主体による活動から生まれる風景】

旧守山小学校をリノベーションし、地域交流や地域活動を促すことを目的として2019年にオープンした複合施設です。

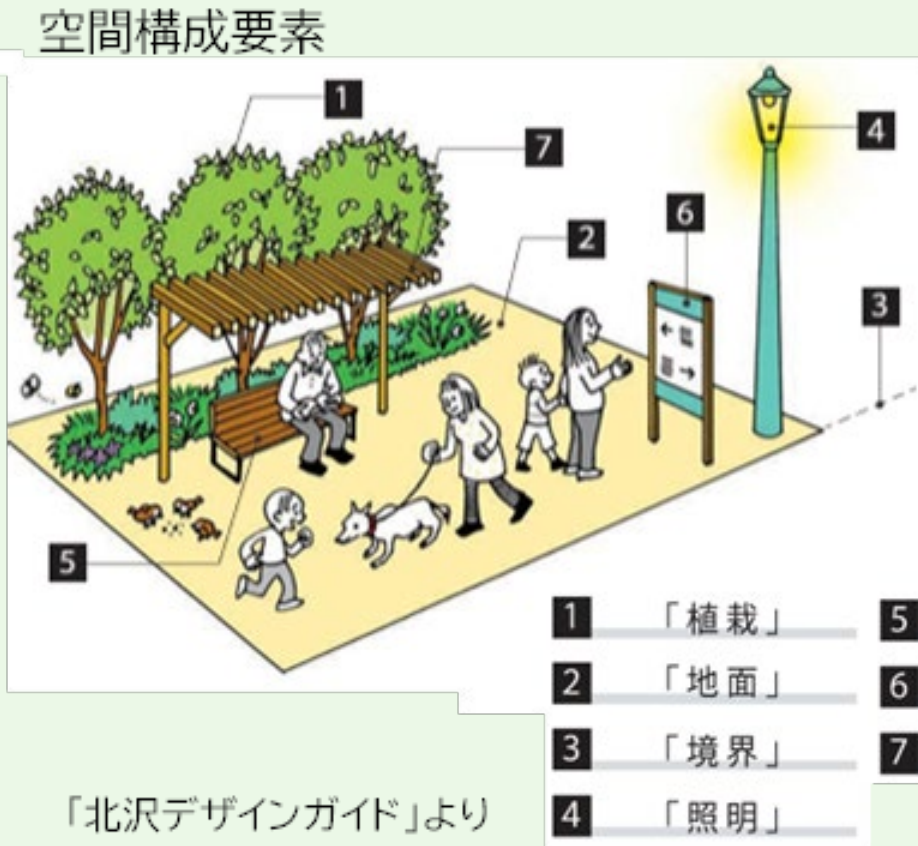
旧守山小学校時代に培われた地域との関わりや学校の思いを引継ぎ、誰でも気軽に利用することが出来る「交流ロビー」や、運動などに使用できる「広場」や「多目的室」、その他地域の方たちによる「部活動」など、様々な活動が行われています。

## 小田急線の上部空間

【広域的かつ長期的な開発における区民、事業者、区の協働による取り組み】

世田谷区では、平成27年（2015年）に、小田急線（代々木上原駅～梅ヶ丘駅間）の上部空間の通路、緑地・小広場等の公共施設について、地域の個性を活かしながら、秩序のある連続した空間づくりに役立てるためのデザインの指針「北沢デザインガイド」を策定しました。「上部利用デザインワークショップ」により区民参加でつくった3つの「デザインコンセプト」に基づき、区施設の整備におけるデザインの方針や具体的方策をまとめ、「デザインガイド」として示しています。

デザインコードの設定にあたっての7つの空間構成要素



デザインコードを基にしたデザインの例

2 「地面」 連続性を感じる素材・色

- ①通路については、調和のとれた素材と色彩とする。
- ②敷地境界にこだわらず、隣接する舗装との一体感を高める。
- ③基盤となる舗装材は、多様なプランに馴染み連続性をとりやすい素材とする。



## 世田谷区本庁舎及び世田谷区民会館

【風景づくりに配慮した公共施設】

世田谷区役所本庁舎及び世田谷区民会館は、建築後50年以上が経過し、災害対策や区民サービス、環境性能などの様々な機能を向上させる必要があることから、令和3年（2021年）7月に着工し、現在工事中です。整備にあたり、区は区民に親しまれていた正面玄関のケヤキ並木を“可能な限り保存”することを、建替えの基本設計方針に明記しました。また、残しながら状態が悪く伐採することとなった樹木の一部は、区民ワークショップを通して家具として生まれ変わり、現在は新庁舎で活用されています。

世田谷区民会館の外壁改修にあたっては、特徴的な「折板構造」の外壁を、職人の手作業により保存再生することで、区民から親しまれている風景の継承を図りました。



移植されるケヤキ

## 成城3丁目桜と紅葉の並木

【風景づくりアドバイザーの活用】

成城学園が住宅地として開発され始めた頃に、大きな邸宅の玄関に続くアプローチとしてつくられた成城3丁目桜と紅葉の並木通り。

砂利敷きの為に所々に轢ができ水たまりが生じていたことから、趣のある風景を維持しつつ、安心して通行が出来る私道整備の検討が始まりました。

その際に、風景づくりアドバイザー制度を活用し、私道所有者の方々からの要望の取りまとめや、具体的な整備案の検討、解決すべき課題などについてアドバイス頂きました。



## 世田谷清掃工場【煙突色彩デザイン公募】

世田谷区では、昭和63年（1988年）に、世田谷清掃工場の煙突の建て替えに伴い、煙突の色彩デザインを一般公募しました。

1040点の応募作品が寄せられ、審査委員会による審査により、砧公園や世田谷美術館などの周囲の環境と調和した色彩の煙突が生まれました。



## bajico

【地域活動から生まれる風景】

「bajico」とは、「馬事公苑界隈コミュニティデザインプロジェクト」の愛称です。地域に関心を持つ住民、区内の大学、企業、NPO、近隣店舗などのメンバーと世田谷区都市デザイン課との協働により、現在は馬事公苑前の「けやき広場」にて年に3～4回のイベントを開催しています。



## おやまちプロジェクト

【地域活動から生まれる風景】

尾山台周辺地域で、商店街・小中学校・大学・地域住民など、多様な人々が参加し、日常の中に交流や学び、チャレンジの場を生み出している取り組みです。「つながるホコ天プロジェクト」や「おやまちカレー食堂」など、各々が持ち味を発揮しながら、自分たちの手でまちでの暮らしをより豊かにする活動を行っています。

## 奥沢1～3丁目等界隈形成地区【界隈形成地区】

奥沢1～3丁目等地区は、みどり豊かな住宅地や歴史を感じさせる街並みなど地域固有の風景を残し、また、住民団体の地域活動も活発に行われている地域です。

平成29年（2017年）度より、魅力的な風景を地域住民の手で守り育てて次世代を担う子どもたちを引き継ぐため、住民と区が協働して「奥沢1～3丁目等界隈形成地区～みどり人と人がつながる風景づくり～」の指定に向けた検討（令和4年指定）や奥沢の風景の魅力を共有するためのイベント「風景祭」を実施しています。

